

# ヤンキーと社会学者

論説委員 松岡 健

## 日々小論



その成果の一つが、6年前に刊行された著書「ヤンキーと地元」。沖縄書店大賞の沖縄部門大賞を受けるなど話題になり、昨 years 文庫化された。神戸の書店では平積みになっている。

**A** 打越さんが付き合った若者たちは、国道でバイクの爆音を響かせ、建設業の孫請け会社で稼いだり、性風俗店やヤミの業者で働いたりしていた。ギャングブルに金をつぎ込み、暴力をふるいふるわれ、離婚を経験する。正当化できない部分も含め、同書は安定した職を得られない彼

① 打越正行さんは沖縄で「パシリ」になった。使い走り（雑用係）のことだ。暴走族にバカにされながらタバコの買い出しをし、建設現場ではヤンキーの先輩に怒鳴られつつ、その補佐役を務めた。そうした役割をこなしながら長期の調査を続け、過酷な現実を生きる若者を対象にした社会学の研究を深めた。

2 若者たちが **A** の段落のような生活を送っているのはなぜでしょう。解答欄に合うように本文中から11文字で抜き出しましょう。

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

から。

3 傍線部②について、沖縄戦では沖縄県民の4人に1人が命を落とし、1945年6月23日に組織的な戦闘が終わったとされ、その日を「慰霊の日」としています。沖縄は長くアメリカの統治下におかれていましたが、日本に返還されたのは何年ですか。

年
---

4 打越さんはヤンキーとアメリカ軍基地の関係について、どのように考えていますか。本文中から35字以上40字以内で抜き出し、最初と最後の3文字を書きましょう。

			～			
--	--	--	---	--	--	--

② 打越正行さんは沖縄で「パシリ」になった。使い走り（雑用係）のことだ。暴走族にバカにされながらタバコの買い出しをし、建設現場ではヤンキーの先輩に怒鳴られつつ、その補佐役を務めた。そうした役割をこなしながら長期の調査を続け、過酷な現実を生きる若者を対象にした社会学の研究を深めた。

「米軍基地と共存しないと、（略）生活かかってないから、基地反対とか言うんだよ」

だが打越さんは「（基地も）暴走族やヤンキーが直面するシビアな現実と無関係ではない」と指摘する。彼らの厳しい労働環境は、差別的な基地の押しつけなどで経済が自立できずにいる結果という意味だろう。

打越さんは本の出版後、和光大の教員になる。解説で岸政彦京大教授は「打越正行は、日本語圏の社会学の希望である」と述べた。人にはまねのできない調査で、沖縄の実相を明らかにし続けると期待されていた。それなのに昨年12月に病没した。45歳。早世が惜まれる。

## NIEワークシートのこたえ（2025年6月20日公開）

◆ワークシート「沖縄とヤンキー(国語 社会)」  
2025.6.19付 朝刊 10面 解答

- 1 社会学の研究
- 2 安定した職を得られない
- 3 1972年
- 4 彼らの ～ る結果